

編集後記

原稿が集まってから **LaTeX** と **Microsoft Word** とでは見た目がかなり違うことに気づき、安武先生にいろいろ検討してもらいました。その結果を反映させようとしたら、レイアウトが大幅に崩れてしまう原稿もあって、一部は変更を諦めました。変更した原稿は執筆者が意図したレイアウトとはかけ離れたかもしれません。原稿依頼の時までにきちんとすべきでした。また、執筆要領もきちんと定めておくべきでした。(一ノ瀬)

今回2度目の編集委員となりました。前回と比べて記事も多彩になり、情報科学部の充実した活動を改めて実感しました。編集作業も一ノ瀬編集委員長の事前の準備や段取りのおかげで大変スムーズに進みました。今回は巻頭言の執筆と重なったせいか、それ以外はほとんど他の編集委員に担当して頂きましたが、来年度も引き継ぐ予定ですので、今回を見習って全体の取りまとめに努めたいと思います。(安部)

創刊号以来久々に編集委員となりました。創刊号当時と同様、何から手を付ければよいのかわからず、委員長をはじめ他の委員の方々のご指導のもと、作業をしてきた感があります。相変わらず役に立たず申し訳ありませんでした。この貴重な経験を次の機会に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。(稲永)

編集委員2年目となり、原稿全体をまとめる作業を手伝うようになりました。現状は **LaTeX** と **Microsoft Word** の2種類の形式で執筆された原稿を、専用のツールを使うことなくまとめています。そこで、少しでも読んでいる方々が違和感を抱かないように **Word** 原稿のレイアウトやフォントサイズなどを改めて調整

しました。まったく同じ形式というわけではありませんが、読みやすい文章となるよう注意したつもりです。今後は最終原稿の作成や校正が残っていますので、気を抜かず取り組みたいと思います。(安武)